

第14回(平成26年度)私立短大入試広報担当者研修会 分科会2報告書

運営委員：六浦政人(修文大学短期大学部)

参加者15名を①所在地 ②収容定員 ③男女比率 ④年齢からA～Cの3グループに分け、参加者の関心事項として非常に興味があった「オープンキャンパス」について、今回の研修会の目的でもある「チームビルド」を主眼に据え分科会進行を行った。また分科会進行では、結論を見出すことを重要視せず、知恵を出し合い募集における最善の方法を探し出すプロセスやロジックを見つけることを重要視し、初日は「自己・他者の理解」でお互い理解を深め、2日目以降の分科会では、様々な制約を無視し、目的をロジックツリーのトップに置いて誘引～施策～フォローまでの企画立案を行う「理想のオープンキャンパス作り」の討議(発表)を行った。

1) 初日(目的：自己と他者の理解)

- ①初日のワークショップを受け、事前に作成を依頼した自己紹介シート・大学紹介シートで、自己紹介と他者理解を行った(自己紹介の時間は、一人2分)。
- ②自己紹介後、自大学の大学案内やオープンキャンパスツール等のプレゼンテーションを行い、良いと思われる制作物の上位3校の投票を行い、上位3名には表彰(賞品贈呈)を行った。
※制作物については交換を行い、良い点・悪い点について意見交換を行った。
- ③2日目以降の分科会進行について説明を行った。
- ④情報交換懇談会では、お酒を触媒としてさらに自己・他者の理解を深めた。

【目標】

分科会の目的である「コミュニケーションの構築(=チームビルドの根幹)」。

初対面という緊張状態から、2日目以降の分科会進行でスムーズにプレストできる雰囲気を作る。

→ 初日の講演でのグループワークや情報交換懇談会でのお酒を触媒とした語りの場を有効活用。

2) 2日目(目的：傾聴～発見～発信～共有 → チームビルド)

- ①A～Cの各グループに分かれ、設置学科・地域性・予算規模・競合校設定などの状況(条件)は一切排除し、来場される参加者の目線に立った(これは有効的だと思われる)オープンキャンパスの企画を、各グループの中で各々が有機的に働きかけながら、告知(誘引)～当日の施策(企画内容)～フォロー(出願に結び付ける)までの一貫したストーリーをピラミッドストラクチャー・ロジカルシンキング・BS法・KJ法を使用し組み立てていただいた。
- ②組み立てた施策を分科会内でプレゼンテーションできるよう、模造紙に記入し、各グループ5分間のプレゼンテーションを行った。プレゼンテーション後、発表を聞いた他のグループからプレゼンテーションの良かった点・悪かった点を述べていただき、翌日の全体発表に向けプレゼンテーション内容のブラッシュアップ(「キラーコンテンツはどこにあるのか」「その広報施策にストーリー性はあるか」を明確化し)をしていただいた。

【目標】

様々な意見や知恵を様々な手法によって昇華させ、一定の方向(定めた目的)へと導いていくプロセス(過程)やロジック(論法・論理・道筋)を学ぶ。もちろんチームビルド(有機的な組織活性)

の重要性も学ぶ。

面識のない広報担当者同士が、分科会を通じ、様々な思考を持つ広報担当者と意見交換することで、自校での広報活動に活かすことのできる施策を模索する。また、お互いの意見・思考を尊重しあいながら自分の思考を昇華することで、「脳に汗をかく」。

- 様々な地域や環境・規模で構成された各グループで、これまでの経験や様々な考えを融合させ、新しい目線を創造する。
- 普段の業務では行うことの少ない「知恵を出し合う」というプロセスがいかに大事かということ学ぶ。
- 全員で考えた案を発表することで、能動的に働きかけるスイッチが押され、受動的になっていた姿勢に変化を与える。また、それぞれが他者に働きかけることで組織が活性化できるという認識を持つ。

3) 最終日（目的：能動的な働きかけによる更なる組織活性）

- ①ブラッシュアップさせた内容を再度模造紙にまとめ、分科会内で発表を行い、全体会での発表に備えた。
- ②全体会では、各グループ（3グループ）が4分間で討議した内容について発表を行い、3分間で分科会内での雰囲気や今回の研修会を通して学んだことなどについて発表を行った。

【目標】

他者を認め、他者に働きかけることで変化（能動的に働きかけることで変化）していく環境・状況を実感・目の当たりにすることで、忘れかけていた情熱や流されていた状況を少しでも打破する。また、発信することばかりに傾倒しがちな仕事を、傾聴も同じく重要視することでさらなる組織活性が望めるということに気付かせる。

【反省・感想】

- 1) 研修会の目的は、広報担当者のスキルアップではなく、「変化の機会を与える・授かる」ことだと思われれます。「埋没しがちな大切なこと（コミュニケーション（発信するだけでなく傾聴すること）、考えるという行為など）に気づき、業務に生かす」こうした小さなことが、組織活性につながるはずです。今後も本研修会の重要性を理解していただけるよう努力を重ねていきたいと思われれます。
- 2) 分科会進行において、日常業務との兼務により用意周到とはいかず、参加者には多少の消化不良があったことは否めず、まだまだ運営委員として未熟さ痛感する結果となった研修会でした。次回からは周到な準備を行い、研修会に臨みたいと思われれます。
- 3) 参加者の意見や表情から、分科会の目的としていた①他者から発信される意見や知恵を様々な方法で昇華させ、一定の方向へ導いていくプロセスやロジックを学ぶ②チームビルド（自己を理解し、他者に対して能動的に働きかける）といった目標に一步でも近づくことができたのではないかとと思われれます。

また、今回の研修会を通じ、自身も業務改善のヒントが得られまし。

以上

